

## 『働くこと』は、何のため？

学校所在府県：大阪府

学校名：大阪市立開平小学校

名前：和田 吉雄

実践教科：総合的な学習の時間・道徳・社会

指導時数：8時間＋学習発表会

対象学年：小学校6年生

対象人数：21人（1クラス）

### 1. 教師海外研修を通して感じたこと

十数年前にインドに赴いた際に、カーストによって仕事が細分化されていたことを目の当たりにした。インド同様にカーストが存在するネパールの人々の生活と仕事について、今担任している6年生のキャリア教育を考える一つの題材として取り上げていきたいと考え、今回の海外研修に参加した。

実際に海外研修を通して感じたことは、当初もっていたネパールのイメージとは大きく異なるものであった。国や民間の組織などが次の世代のために計画と投資をしっかりと行っている点や、特に10歳ごろになると、当たり前のように英語で学習を行っている点や、SLCによる厳しい進学状況などである。国外への出稼ぎに出ている若者たちがもっと活躍できる環境が構築できれば、国としての発展が大いにありえるのではないかと感じた。また、経済的には決して裕福ではないが、貧しいながらも家族が手を取り合って豊かに生活をする姿があった。

しかし、通訳の方によると、地方の農村部に行くと状況は異なり、一般的にイメージされる貧困状況はまだ存在しているとのことであった。事前研修の中で、ネパールでは住んでいる地域や民族によって大きな格差があるということを知り、カトマンズを頂点とすれば、そこから離れば離れるほど経済状況は貧しくなっていくということである。また今回のような機会があれば、同じ国の中での経済格差、生活の違い、児童労働の実態などについても考える機会をもてみたい。

SDGsで策定されている持続可能な開発目標は、必ずしも開発途上国だけの問題ではないと考えている。日本の身近なところでも格差やジェンダーなど多くの課題があり、そういった問題に直面している児童もいる。それらと向き合い、考えていくためには、自ら体験し、積極的に知ることが第一歩であり、今回の一連の取り組みは大変意義深いものとなった。

### 2. カリキュラム

#### (1) 実践の目的・背景

『働くこと』は何のためにあるのか。なぜ『働くこと』でお金を得ることができるのか。自分たちの身近な仕事の話を知ったり、体験学習に取り組んだりすることに加え、世界の様々な国の人々の姿や、世界で働く日本人の姿を通して、働くことの意義を考えることができる力を育むため、本学習を計画した。

具体的には、『働く』ということを考えていくことになる。『仕事』として働くことも、『支援』として働くことも、その根底にあるものは同じである。どれだけ相手の事を考え、相手が本当に必要としていることに対して取り組んでいく姿勢があってこそその『仕事』であり『支援』である、ということへの気づきを目指し、取り組んだ。その中でも、『持続可能な支援』をキーワードとし、児童と共に自分たちにもできることを考え、児童それぞれが自分の将来について考えていくことに関連させていくことができるようにした。

学習したことの成果は、全校行事の学習発表会にて発表を行った。谷川俊太郎氏の詩『そのこ』をベースにし、自分たちの当たり前が当たり前ではないこともある世の中で、自分たちにできることは何か、ということに焦点をおいた構成とし発表した。

## (2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
<b>1時限目(総合)</b> 『働くこと』は何のため？ *自分たちが持っている知識やイメージを共有する。	●何のために人は『働く』のだろうか。なぜ働くことがお金を得られることにつながるのだろうか。自分たちが“今”もっている考えを交流する。	●教材プリント
<b>2時限目(総合:学習参観)</b> 写真から考えよう① *必ずしも誰もが平等に就学や就労の機会があるわけではないことへの気付き。	●班ごとに異なる写真を見て、その写真が何を現した写真なのかを考え、説明する。(フォトランゲージ) ●自分たちが考えたことを発表・交流する。	●ネパールの人々の写真 ●付箋と模造紙
<b>3時限目(総合)</b> 写真から考えよう② *その国に応じた仕事や支援の形への気付き。	●班ごとに異なる写真を見て、その写真が何を現した写真なのかを考え、説明する。(フォトランゲージ) ●自分たちが考えたことを発表・交流する。	●ネパールの様々な仕事をする人々の写真 ●付箋と模造紙
<b>4時限目(道徳:公開授業)</b> 文化の違いを考えよう *自分の中の当たり前が当たり前ではないことへの気付き。	●「レヌカの学び」を行う。 ●ゲームを通して、思ったことや感じたことを発表し、交流する。	●教材「レヌカの学び」 ●教材プリント
<b>5時限目(総合)</b> 『支援する』とは？ *国際協力に大切なことを考える。	●ネパールの国の現状を考え、どのような支援が必要なのかを考える。 ●考えたアイデアを寸劇で表現する。	●教材プリント
<b>6時限目(社会:出前授業)</b> 世界で活躍する人々 *『支援する』ことについて考えを深める。	●青年海外協力隊員の方による出前授業。 ●人々を支え、自発性を促す支援が大切ということから、これまでの自分の考えと比較して考える。	●写真及びパワーポイント資料
<b>7時限目(総合)</b> 自分たちにできることは？ *支援も仕事も大切なことは同じであるということへの気付き。	●『与える支援』ではなく、『持続可能な支援』とはどのようなものがあるか考える。 ●支援をするにあたって最も大切なことは何か考える。	●教材プリント
<b>学習発表会</b>	谷川俊太郎氏の「そのこ」を元に、台本、演出を自分達で計画し実践。	
<b>8時限目(総合)</b> 学習したことをふりかえろう *学習したことから、自分自身の将来へとつなげていく。	●自分が目指す夢は、人々にとってどれくらい大切な仕事なのか考える。 ●職業体験をするにあたって、大切なことは何か考える。	●教材プリント

## 3. 授業の詳細

### 1 時限目：『働くこと』は何のため？

ねらい…ネパールに関する基礎知識を学ぶ。

#### ◆内容◆

- ① 『働くこと』は何のために行うのか、意見を発表する。
- ② なぜ働くことで『お金』を得ることができるのかを考える。

#### ！ココがポイント

単元を通して自分の中の変様気づくことができるよう、自分自身の中にある働くことに対する価値観を共有することができるよう取り組んだ。

## 児童の反応

- ▶ 「お金」「生活」という意見が大半であり、働くことの先にある誰かの姿を捉えている児童は若干名であった。

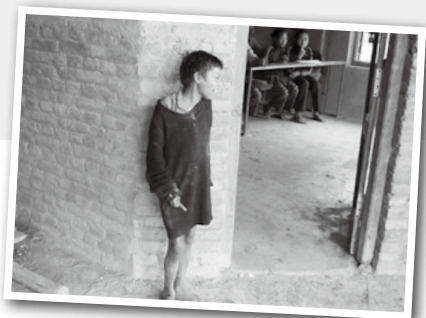
◆所感◆ 本校児童の家庭状況などからも、児童の意見としてはある程度予想していた結果となった。しかしその中に、本学習全体を通して児童に気づいてほしい意見があったため、この意見を大切に、膨らませていきたいと感じた。

## 2時限目：写真から考えよう①

ねらい…必ずしも誰もが平等に就学や就労の機会があるわけではないことへの気付き。

### ◆内容◆

- ① 班ごとに、写真からわかることを付箋に書き、模造紙に貼る。
- ② 出てきた意見をグルーピングし、班としての意見を決める。
- ③ 自分たちが考えたことを発表し交流する。
- ④ 写真の解説を聞き、感じたことを発表する。



彼は教室の外で何をしているのだろう

### ! ココがポイント

ネパールの人々の中で、就業・修学することが難しい現実と直面している人々や、職種によって従事できる人・できない人がいる、ということに写真を通して気づくことができるよう取り組んだ。

## 児童の反応

- ▶ 性別、障がい、身分が違う、そういったことでやりたいことができないという現実があることに驚きを感じると共に、自分たちの国でも同じようなことはないのだろうかと考えを巡らせる児童もいた。

◆所感◆ 初めて取り組んだフォトランゲージであったが、一枚の写真から班の中で様々な意見を交わすことで、よりその写真の人々の生活について考えることができていたようであった。そのため、それぞれの写真が何を表しているか解説を行った際には、よりそこに驚きが生まれていた様子であった。

## 3時限目：写真から考えよう②

ねらい…その国に応じた仕事や支援の形への気付き。

### ◆内容◆

- ① 班ごとに、写真からわかることを付箋に書き、模造紙に貼る。
- ② 出てきた意見をグルーピングし、班としての意見を決める。
- ③ 自分たちが考えたことを発表し交流する。
- ④ 写真の解説を聞き、感じたことを発表する。



こんなにもたくさんの日本人がかつやくしているのか!

### ! ココがポイント

前回とは異なり、いきいきと働いているネパールの人々や、ネパールで活躍する協力隊員の方々の写真から、人々がどのような気持ちをもって働くことができることが大切なのか、気づくことができるよう取り組んだ。

## 児童の反応

- ▶ 様々な仕事に従事する人々の様子を見て前時の学習とも比較し、人々がいきいきと働くことができることの大切さに気付いていた様子であった。また、ネパールで活躍する日本人がたくさんいることに対して驚きを感じていた。

◆所感◆ 再びフォトランゲージに取り組み、写真に表されているいきいき働く人々の表情から、自分たちにできることを考え始める片鱗が見えてきたように思った。

## 4時限目：文化の違いを考えよう

ねらい…自分の中の当たり前が当たり前ではないことへの気付き。



これはどっちのレヌカさんだろう？

### ◆内容◆

- ① 『レヌカの学び』を行う。
- ② ゲームを通して、思ったことや感じたことを交流する。

### ！ココがポイント

ゲームを通して、自然に班の中での交流を促す。

### 児童の感想

▶自分たちの思っている「あたりまえ」は、必ずしも他の国の「あたりまえ」ではなく、知らない間にそういった「あたりまえ」のちがいを否定するようなことをしてしまっている、ということがわかりました。自分の国と相手の国の違いを認め合って、みんな平等になればいいな、と思いました。

◆所感◆ ゲームを通して自然に文化の違いと、自分たちの思い込みに気が付くことができたように思う。違うことは当たり前なのだというふまえ、より相手のことを考えなければいけないという考えに近づけることができたように思う。

## 5・6時限目：『支援する』とは？・世界で活躍する人々

ねらい…国際協力に大切なことを考える。  
『支援する』ことについて考えを深める。



「助けに行ったはずが、助けられっぱなしでした」という言葉が印象的だったハンコックさん

### ◆内容◆

<5時限目>

- ① 『支援する』とは具体的に何をするのか、意見を言う。
- ② 出てきた意見を寸劇で表す。
- ③ 本当に必要な支援とは何か考える。

<6時限目>

- ① 青年海外協力隊員だった方のお話を聞く。
- ② 『支援する』ということに大切なことを一緒に考える。

### ！ココがポイント

『支援する』ということに対して自分たちで結果を予想し、出前授業で実際に体験された方の話を聞くことで、より自分たちの考えを深めていくことができるようにした。

### 児童の感想

▶ハンコックさんの授業で、人のあたたかみを感じられる『支援』をすることで、人々を支えることができるということを知りました。

◆所感◆ 再びフォトランゲージに取り組み、写真に表されているいきいき働く人々の表情から、自分たちにできることを考え始める意識の芽生えが見えてきたように思った。

## 7時限目：自分たちにできることは？

ねらい…支援も仕事も大切なことは同じであるということへの気付き。

### ◆内容◆

- ① これまでの学習を振り返る。
- ② 自分たちにできることは何かを考える。
- ③ 学習してきたことを多くの人に伝えるために、学習発表会での伝えるための発表構成を考える。

◆所感◆ これまでの学習が一本の線としてつながり、意欲的に学習発表会の取り組みに移ることができた。それぞれの児童の強みを生かした発表構成を考えることができていた。

### ！ココがポイント

自分たちが学び、気づいてきたことをより多くの人々に伝えるために、様々な方法を自由に意見交換させる。

## 学習発表会：わたしと そのこと おなじそら

1	ネパールの歴史にドキリダンス	ネパールの状況や教育制度などを歌にして。
2	朗読『わたしと そのこと おなじそら (前半)』	詩の朗読を行う。
3	寸劇①『お金の支援をしたらどうだろう』	たくさんのお金の支援をしたら、「そのこ」はどうなっていくだろう
4	朗読『わたしと そのこと おなじそら (後半)』	詩の朗読を行う。
5	寸劇②『持続可能な支援とはなんだろう』	「そのこ」の未来のために、本当の支援とは何だろう。
6	僕たち・私たちにできること	今日から自分たちにできることを発表しよう。
7	エンドダンス (レッサン・フィリリ)	ネパールの民謡「レッサン・フィリリ」の振り付けを考え、ダンスを踊る



朗読パート



寸劇パート



フィナーレ

## 8時限目：学習したことをふりかえろう(資料1・資料2)

ねらい…学習したことから、自分自身の将来へとつなげていく。

### ◆内容◆

- ① 『支援』でも『仕事』でも、大切なことは何か。
- ② 自分の将来の夢を、もう一度考えてみよう。

### ！ココがポイント

本学習の後、児童は職業体験をひかえており、その際にもどのような心構えで取り組んでいくことが大切なのかをここで考えさせることで、今後の学習へとつなげていった。

## 児童の感想

▶自分の夢も、しっかりと相手のことを考えて、その人たちの役に立てるようにすることが大切なことなのだと気づくことができました。

◆所感◆ 1時間目に児童が持っていた考えと、学習を終えて改めて問い直した考えとの間には確実に変様が生まれていた。ここで培った考えをもって、残りの6年生でのキャリア教育をより充実させ、児童が自分たちの将来を考える手立てとなるべく取り組んでいくこととしたい。

## 4. 成果

今回の研修前には、ネパールの民謡『レッスン・フィリリ』の振り付けを児童が考え、撮影したものをネパールのシュリカリカ学校に紹介し、ダンスを通じて国と国とのつながりを図る取り組みを行った。活動を通して児童が自主的に取り組み、現地の子どもたちが自分たちの作ったダンスを踊っている姿を見ることで達成感を感じることができていた。これらの一連の学習を終え、児童の意識の中に相手のことをしっかりと思いやる気持ちの高まりを感じ取ることができた。これまでの学級の雰囲気には、何か問題が発生した時も自分のこととして考える力や、相手の気持ちをいかにくみ取って行動に移すべきか、という点において課題があると考えていた。今回の取り組みを通して、多くの児童がこれらの学級にとって大切なことに気付くことができ、卒業に向けてより学級の結束を強めていくことができたように思う。また、自分たちの将来を考える上で、選択の幅がより広まったのではないだろうか。

本研修を通して、自分一人だけではできないような貴重な場所や人との出会い、校種や年齢のちがう仲間たちとの多くの体験ができたことにより、一人の力では作り上げることができないような学習計画に結び付けることができた。ネパールの国としての教育指針を決めるような人物と出会ったり、様々な取り組みを行っている団体からこれほどたくさんの意見を聞く機会は個人のレベルでは実現できないことばかりであった。今後は、児童のみならず、共に働く教職員、そしてこのような海外研修を希望する方々にしっかりと体験して思ったことや感じたことなどを伝えていくことが大切だと考えている。

また、自分自身が開発教育に興味関心が高まったことも成果の一つである。開発教育の様々な手法を用いることで、指導する際の選択の幅が広がった。実際に、学級経営や学習指導を行うにあたっては民間企業での経験を活かしたキャリア教育を主軸とした取り組みを行っているため、今回の海外研修を通して得られた経験や知識を用いて、さらに指導技術を高めていくことができるようにしていきたい。

## 5. 課題

今回の研修で得たことを改めてカリキュラムとして計画するにあたっては、どこに焦点を置いていくかがとても難しい点であった。見て、聞いて、体感したこと、たくさんの写真や資料、それら膨大な情報の中から、キャリア教育として必要なことを選び出すことに時間を要した。結果として、今回は児童の興味関心が『支援の在り方』という点に収束していったことによって、最後の学習発表会にうまく繋げることができたと思う。しかし、ネパールという国についてもっと調べる時間を用意し、児童が主体的にどこに興味関心をもって取り組むか、ということを中心にふまえた上で渡航することで、現地に必要な情報を意識した視察ができたのではないかと考えている。これから教師海外研修を目指す先生方には、ぜひ事前に自分の学級の児童とたくさんの対話を経た上で参加することで、必要な情報をもっと明確に集めていってほしいと考えている。

資料1 はがき新聞 1



資料2 はがき新聞 2



### 参考資料

- ・参考文献
- 「そのこ」谷川俊太郎 晶文社 2011
- 「レヌカの学び ～自分の中の異文化に出会う」土橋泰子 開発教育協会 2011